

趣旨・目的

- 介護福祉士養成校への入学生が減少するなど、若い世代の福祉・介護人材の確保が厳しい状況となるなか、中長期的な視点で子どもが福祉及び福祉職を理解し、関心を高める機会を増加させることが必要となる。
- 福祉関係機関が協力し、学校の家庭科、総合的な学習（探究）の時間等の授業に福祉専門職を派遣する仕組みを構築したうえで、学校からのオーダーに対し、調整をしたうえで派遣を行う。

取組内容

1 子どもの福祉職理解促進3者会議の開催

福祉・教育の協力体制を強化するため、県教育委員会（高等学校課）、高知県子ども・福祉政策課（長寿社会課）、高知県社協（福祉人材センター）の3者会議を定期的開催

2 子どもの福祉職理解促進ワーキング会の開催

本事業の仕組み及び協力体制を構築・運用するため、福祉事業者団体、福祉職能団体、養成校、教育関係団体等とワーキング会を開催

3 福祉関係機関合同福祉教育研修会の開催

子どもの福祉職理解を促進するための目線合わせと効果的なプログラムを学び合うため、各団体からの登録講師を対象とした福祉教育研修会を開催

4 学校授業への福祉専門職の派遣

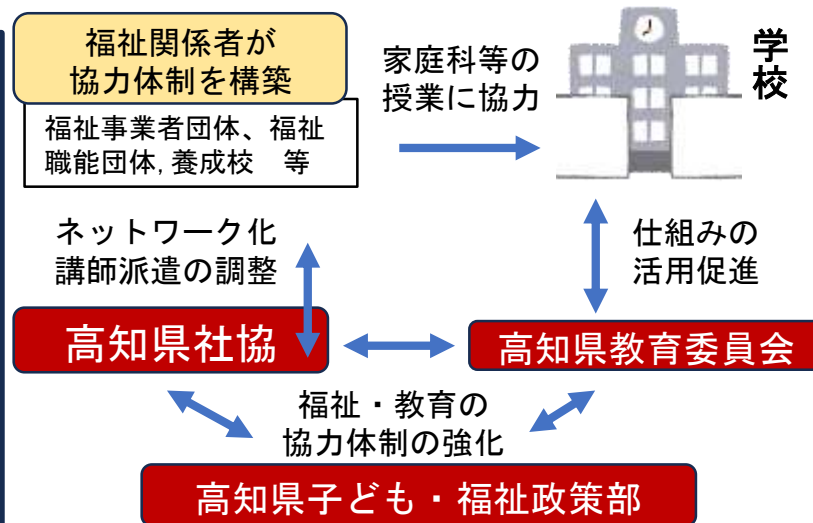
学校に対し、授業への福祉専門職の派遣の仕組みを周知し、オーダーに合わせた授業内容及び登録講師（福祉専門職）を調整して派遣

○派遣する授業

家庭科、総合的な探究の時間、キャリア教育、進路説明会等

○派遣する講師

社会福祉士、介護福祉士、保育士等の福祉専門職及び社協職員



令和6年度派遣状況

■派遣回数 19高校42回（予定含む）

■授業内容

○福祉理解（基本的な考え方、地域共生社会、災害福祉支援、人権）

○仕事説明（介護、保育）

○仕事体験（ノーリフティング、保育）

○介護技術（歩行介助、食事介助）

○保育実践（心構え、表現活動）